

## ＪＲ東海労による不団結要素の拡大に抗議する！

「２０２４ＪＲ総連春闘」がスタートし、ＪＲ総連の加盟単組の団結力を高めていく必要性が高まる中、ＪＲ東海労組合員の自宅に「ＪＲ東海労働組合新幹線地方本部」の封筒（消印２月１９日）で、ＪＲ東海労執行副委員長・成田隆浩氏からの「手紙」と「ＪＲ東海労連結成大会のＣＤ」「ＪＲ東海労第３７回定期委員会のＣＤ」「２．１４ＪＲ総連見解」が届いた。

内容は、２月１４日のＪＲ総連の見解には「いくつかの事実誤認もある」、新労組結成の「たたかいを拡大するのがわが仲間ではないでしょうか」と書かれている。

この手紙はＪＲ東海労・淵上委員長も出席し異論も述べず賛同したＪＲ総連第９回執行委員会での決定に反する行為であり、ＪＲ総連春闘の重要な時期において組織の団結を乱し、混乱と不団結要素の拡大をもたらすものである。ＪＲ東海労はＪＲ東海労に厳重に抗議する。また、ＪＲ総連に対し、ＪＲ総連規約第５条５項（目的）の加盟組合および組合員の団結の強化と組織の拡大に相反するこの行為に対し、厳正な対応を要請する。

ＪＲ総連見解には、「ＪＲ東海労、ＪＲ東海労新幹線関西地本、ＪＳ労関係者は、ＪＲ総連指導に基づき、ＪＲ総連加盟各単組の信頼回復と一刻も早い混乱收拾のための実践が求められていることを自覚すべき」と記載されているが、そのことが自覚されていないと認識せざるを得ない。

ＪＲ東海労新幹線関西地本のＨＰには依然として、ＪＲ総連のリーダーを組織破壊者とした文書や許可を得ない録音による会議の議事録、津崎議長に対する誹謗中傷が掲載されている。ＪＲ総連第４６回定期中央委員会で、ＪＲ東海労は、「ＪＲ東海労新幹線関西地本」「ＪＲ東海労組合員京力氏」がひがし労の堀口氏に情報提供を行っている事実を指摘し調査を求めたが、その報告はない。ひがし労との内通者に立ち向かえないならばその理由を明らかにするべきである！

ＪＲ東海労は「ＪＲ総連加盟各単組の信頼回復と一刻も早い混乱收拾のための実践」が行われているとは到底思えず、もはやＪＲ総連加盟単組の資格が問われる問題である。

ＪＲ東海労は組合員の二重加盟に対し、「組織と機関役員に対する不信感を醸成するもの」として制裁を行ってきた経緯からもＪＳ労の二重加盟は容認することはできない。まして、ＪＲ総連に敵対を続けてきたＪＲ連合の組合員を、組織的な議論もなくＪＲ総連加盟単組に二重加盟させることは、論外である。

ＪＲ東海労は、ＪＲ総連の機関決定や見解に基づき、ＪＲ総連に集う仲間と共に、今後も全組合員と歩んでいく。

ＪＲ東海労には「ＪＲ総連加盟各単組の信頼回復と一刻も早い混乱收拾のための実践」を強く要請するものである。

２０２４年３月４日  
東日本旅客鉄道労働組合